2023 年 5 月 12 日　記者会見　質疑応答（神戸）

発表内容：2023 年 3 月期決算について
日　　時：2023 年 5 月 12 日（金）　16 時 30 分～17 時 30 分
場　　所：みなと銀行 本店
発 表 者：みなと銀行 代表取締役社長　武市 寿一
関西みらいフィナンシャルグループ 取締役兼執行役員　持丸 秀樹
みなと銀行 執行役員　結城 庄二

【質疑応答】

Ｑ１．ゼロゼロ融資について。代弁率、延滞率ともに想定の範囲内、ということであるが、通常の貸出債権よりも高いという前提の中での想定内、ということか。

Ａ１．（武市社長）
みなと銀行は、コロナに係る特例引当を終了すると申し上げたが、その背景として、りそなグループでは、飲食業や宿泊業と云ったダメージを受け易い業種を「コロナ直接影響業種」として選定・管理しており、そういった業種のデフォルト率が、１年ほど前までは一般の業種よりかなり高かったが、直近１年を見ると一般業種と変わらない、もしくは減少してきている。
そういった意味では、コロナの影響は、大きな流れとして収束に向かっているとみている。

Ｑ２．フィー収益について。投信販売手数料の減少を法人関連でカバーしたとのことだが、主にどんな収益が伸びたのか。

Ａ２．（武市社長）
大きくは２つある。1 つは貸出金関連で、シンジケートローンなどの収益が増えたこと。再生案件の対応にあたり、シンジケートローンを活用するケースが増えたもの。もう 1 つはビジネスマッチング手数料で、特に補助金の支援業務などを契機としたもの、不動産や人材紹介によるものなどが増えた。

Ｑ３．預貸金利回り差が１５年ぶりに反転したとのことであるが、１番の要因は何か。

Ａ３．（武市社長）
要因は複合的なものであり、一概には言えないが、新規投入利回とストック利回との乖離幅が縮小してきたと云うこと。前期は、利回が総じて低い地公体向けの貸出が少なかったこともある。

Ｑ４．それは貸出先の資金需要が高まってきたからか。

Ａ４．（武市社長）

一概にそうではないが、金利の先高観であったり、コロナ融資の金利が低かったなどの要因が積み重なっている。

Ｑ５．ベースアップの背景と狙いはどういうものか。

Ａ５．（武市社長）

いうまでもなく、消費者物価の上昇があり、それに対し組合からは 7,500 円のベア要求があった。それに応えるべきだと考えたもの。

当然ながら、従業員満足度の向上はグループとしてもしっかり行っていくべきものであり、処遇改善策の一つとして実施をしたということである。

加えて新入社員初任給も来年度から 20,000 円の引き上げとなるので、その兼ね合いもある。

Ｑ６．今期の有価証券運用について、前期からの変化はあるか。

Ａ６．（武市社長）

足元は外債の含み損も約３億円となっており落ち着いている状況である。利息配当収入を増加すべく、満期保有債券の残高を段階的に積み上げていく。

Ｑ７．債券の満期保有を増やしていくことが、利息配当収益割合の増加につながるのか。

Ａ７．（武市社長）

全体の運用ボリュームを大幅に増やす訳ではなく、売買益中心となっていた収益構造を、安定的な収益構造に変えていく、ということである。

以上